

令和8年度入学 一般選抜前期日程 外国語(英語) 講評

第1問

【出題のねらい】

文の構造、文法、語彙を正しく理解した上で、全体の内容を的確に把握できるかを問う読解問題である。

【講評】

全体的に3割程度の正答率であった。ただし、記述問題の正答率は低かった。本文の内容を的確に理解できていない受験者が数多く、読解部分の精読学習をすることが望まれる。

問1

語彙、前置詞、関係詞、完了時制について問う問題であった。正答を導くためには、語彙の理解にとどまらず、文章内容を正確に理解していることが必要であった。語彙の充実や、基本的文法の整理を中心に学習を進めることが望まれる。

問2

全体として、非常に正答率が低かった。Those despairing for Africaが「アフリカの現状を嘆く者たち」であることを理解していた解答が非常に少なかった。this exampleの内容については正しく把握できている解答が多かった。その一方で、life expectanciesやconvincedといった単語を別の単語と混同している解答も散見された。

問3

解答箇所を正しく理解している受験者がほとんどであったが、語彙の理解不足で減点される受験者が散見された。特にsanitation(公衆衛生)を含まず解答していたり、child mortality(小児死亡率)を出生率、いじめ、モラル、稼働率などと誤って理解したりしている解答が散見された。また、independent statesを州と混同している解答もあった。前後の文脈や動詞から内容を推測しながら読んでいくことが望まれる。

問4

convinceをconvenience、predictをprotectと読み違えている解答が散見された。

問 5

文章を読み、大意とその論理展開を理解できるかを問う問題であった。大意を理解できるように学習してほしい。

第 2 問

【出題のねらい】

英文法、及び語彙の用法の基本を理解し、英語で表現する際に応用できるかを問う問題である。

【講評】

全体として、5割程度の正答率であった。

問 1

本問は平易であり、多くの受験者が適切かつ明確に解答していた。会話全体の流れを正しく理解している受験者が大半であったが、最終的に求められている発話「一緒に勉強しない？」を理解できず、「スマートフォンを使わないほうがよいか」といった別の内容で解答する受験者も一部見られた。①および②は正答率が非常に高かった。③についても概ね良好であったが、videos を単数形で用いたり、movies と誤って表現したりした解答が多く見られた。

問 2

問 2 ①は「！」で終わっているが、その他の選択肢は全て「？」で終わっているため、多くの受験者が疑問文を書いて答えていた。解答を書く前に句読点を注意深く確認すべきである。また、多くの受験者が、「that's all right」を「その通りです」と解釈したため、会話のニュアンスを正しく捉えられず、減点された。場面描写は（友人に駆け寄って）である。場面指示に動詞「running」が含まれていたため、多くの受験者が解答に「running」を含めてしまい、減点された。「running」は解答とは無関係である。

第 3 問

【出題のねらい】

提示されている条件に従い、題目に関する自身の考えを、自身の立場を明らかにした上で述べることができるかをねらいとした。

【講評】

全体として、6割程度の正答率であった。「topic sentence → 理由 2 つ → conclusion」という構成を事前に準備していた受験者が多く、Therefore や in conclusion で締めくくるパター

ンが定着していた。一方、文法面ではいくつかの共通した誤りが目立った。まず、能動態と受動態の混同（be banned の誤用など）が複数見られた。次に、decline や down、grow up などの自動詞を他動詞のように使う誤りがあった。また、advices ・ informations ・ knowledges のように、不可算名詞を複数形にする間違いも散見された。文の複雑さ、文法表現、アイデアの展開においては、受験者間で大きな差が見られた。これらの文法ポイントを意識しながら、より自然な英語で表現できると高得点が期待できる。